



ルートヴィヒスハーフェン経済大学 (LUBS)

Ludwigshafen University of Business and Society,
University of Applied Sciences

ドイツ
ルートヴィヒスハーフェン経済大学ホームページ <https://www.hwg-lu.de/>
東アジアセンターのホームページ <https://www.oai.de/de/>

期間 翌年9月中旬～翌々年7月上旬の約10か月間

滞在形態 寮 (またはアパート)

留学費用 総額 約120万円～180万円
ただし、為替レート、生活の仕方による個人差などにより、実際にはかなりの幅があります。

★受入機関・都市の概要

ドイツ西部のラインラント・ファルツ州にある都市ルートヴィヒスハーフェンは、フランクフルト空港から車で1時間弱の場所にあり、大学はライン川のほとりに位置し、ハイデルベルクなど観光地にも近接しています。ビジネス系の学術分野において、質の高い教育と研究に定評のある大学で、教学面での国際化にも力を入れています。東アジアセンターは、日本・韓国・中国のコースがあり、経営学と日本語を同時に学んでいる現地学生との交流もできます。

★留学概要について

交換留学生として約10か月間、LUBS本校で行われている授業を履修します。ドイツ語に堪能でないと、通常のドイツ語で行われる講義を受講することは難しいので、主に本校において英語で行われている授業科目や、留学生のためのドイツ語の科目を受講することになります。授業のない時などは、近隣の国へ足を伸ばすことも可能です。高い英語力と、ドイツに興味があり、長期間非英語圏での生活を体験したい方に向いています。



わたしの留学体験記

留学先 **ドイツ**
ルートヴィヒスハーフェン経済大学 (LUBS)

2019年度 交換留学
出発時 3年生
経済学部 **川越 雄斗**

私は、LUBSに約7か月間留学していました。ここでは、大学・友人・旅行の3点に絞って現地の生活について紹介していきます。

はじめに、大学についてです。LUBSは、経済学及び経営系の単科大学です。留学生が履修できる講義として、経済・経営系の科目だけではなく、言語系 (ドイツ語・英語) や国際政治系の科目も開講しております。私は、国際政治系の科目群を中心に計6科目履修しました。講義の難易度ですが、率直に言うと、難しかったです。欧州各国の政治的決断 (欧州統合やユーロ危機、難民危機における) について、“Why” と “How” を用いて理論的に分析していく講義で、毎週のプレゼン準備やディスカッションに苦戦していました。また、一緒に履修したアルバニア人やポーランド人の友人の知識の深さには一目置くところがあり、彼らに追いつこうと日々必死になって勉強していた覚えがあります。

次に、友人についてです。基本的には、留学生間の交流が多いです。LUBSでは、約80人の留学生が在籍しており、東アジア (日本・韓国) から約20人、中東から約20人、そして残りの約40人が欧米各国からの留学生で構成されていました。留学生が比較的少ない大学だったため、全員と交友関係になれました。交流の場は、大学や学生団体が中心に催してくれますが、留学生同士のパーティーも交流の機会の一つです。私は、フラットメイトのベルギー人と協力してほかの留学生を大勢誘い、大規模なパーティー開いたり、バーに行ったり、クラブに行ったりしていました。最も刺激的だったのは、Beerpong Tournamentを開催したことです。各国のお酒文化にどっぷり浸った忘れもしない良き一夜でした。

最後に、旅行についてです。ドイツは、地理的に欧州の中心に位置しています。フランスやスイスなど合わせて9か国と国境を接しており、欧州旅行をするには最適な場所に位置する国です。ルートヴィヒスハーフェンの隣街であるマンハイムには、比較的大きい駅・バス停があり、電車やバス一本でどこにでも行くことが可能です。加えて、フランクフルト空港からは、イギリス海峡を越えてダブリンやロンドンにも格安で行くことができます。私は、多国籍な友達と旅行をすることが多かったです。そのとき最も苦戦するのが、金銭感覚です。私の友達は、アルバニア人、ベルギー人、アメリカ人の計4カ国8人で構成されていたのですが、個人の金



銭感覚は母国の経済レベルにある程度影響されます。アルバニアは欧州最貧国ともよばれ、平均月収4万円程の国です。そのため彼らは、少し高い入場料がかかる施設には意地でも入らなったり、宿泊代を浮かすために日帰りにしたりするので、彼らへの妥協と我慢が大変でした。ただ、こういう“摩擦”を知り、理解し、「寛容の精神」で受け止めることは、長期留学の一つの醍醐味だと思います。終わりに、帰国してから「留学で最も学んだことは何?」と頻りに質問されます。答えられるわけがありません。現地で体験したことや、深さは計り知れないからです。留学をすると世界観が変わるとよくいわれていますが、実際はそうではありません。正確には、広がるのです。今まで見聞きしたことのない世界で、異文化を感じ、それを寛容に受け止めることで、自分の既存の世界観に彩を与えてくれます。もしかしら、それに気づけたことが、「留学で最も学んだことは何?」への答えになるかもしれません。



テネシー大学マーティン校 (UTM)

The University of Tennessee at Martin

アメリカ
テネシー大学マーティン校のホームページ <https://www.utm.edu/>

期間 翌年8月～12月までの4か月間、または翌々年5月までの約9ヶ月間

滞在形態 寮

留学費用 総額 約80万円～170万円
ただし、為替レート、生活の仕方による個人差などにより、実際にはかなりの幅があります。

★受入機関・都市の概要

UTMのあるマーティンは、テネシー州の州都ナッシュビルより約200キロ北西に位置する小さな田舎町です。自然豊かな環境で、広大なキャンパスには図書館やコンピューター施設、スポーツ施設などが充実しており、キャンパス内での生活に飽きることはありません。

★留学概要について

UTMの学生と一緒に学部の授業を受講します。UTMへの交換留学には、英語力TOEFL iBT 61またはIELTS 5.5以上の英語力が必要です。(それぞれ有効期間は2年間です。派遣の時点で2年経過していない語学成績証明書が必要です) 留学希望者は事前に試験を受け、準備を進めてください。UTMには日本語を教えている日本人の先生がいます。日本語クラブもあり、日本に興味がある学生に触れ合う機会もあります。自然豊かな小さな町で、学業やキャンパスライフに集中したい方に向いています。



わたしの留学体験記

留学先 **アメリカ**
テネシー大学マーティン校 (UTM)

2019年度 交換留学
出発時 4年生
経済学部 **園部 公人**

私は2019年8月から4か月間UTMに留学しました。そこでの経験について紹介したいと思います。

【生活編】
1.寮 私はEllingtonという寮に滞在していました。ここは主にシェアルームとなっており、二人で一つの部屋をシェアするような形式です。主な設備としては、部屋に1つずつシャワーとトイレがついています。また、男子棟と女子棟で部屋が分かれており、それぞれに洗濯機6台、乾燥機6台、キッチン1つが併設されています。これらの設備は無料で使うことができます。食事の面に関しては、昼は主に食堂で食べ、夜は自炊するという形式をとっていました。私はミールプラン (10万円で100食まで食堂が利用可能。他にも75食や50食など、数によって値段が異なる。) に申し込み、昼は食堂を利用し、夜は友人と近くのスーパーに行き食材を購入し調理して食べていました。大学の中にはフードコートなどもあり、寿司やナゲット、アジアフードなどが楽しめますが、値段が1つ10ドル程するのであまりお勧めできません。
2.友人の作り方 不安を煽るわけではないですが、自分から積極的に行動しないとアメリカ人の友達は作りづらい環境にあります。というのも、テネシーは南部にあり、観光客なども少ないため、アジア人を見たこともない人が多く、あまり声をかけてこないからです。そこで私が主にしたことは、授業で隣の席になった人に声をかけ、勉強などをサポートしてもらうことです。クラスには外国人は私しかいない状況がほとんどだったので、「外国人だから授業についていくのが難しい」という立場を利用して、積極的に話かけていきました。意外とアメリカ人は優しく、親切に答えてくれる人が多く、最後には毎日のように家に遊びに行く仲になった友達もいます。

【大学編】
1.キャンパス・施設 キャンパスはかなり広大です。キャンパスの端から端まで歩くには、約15分かかります。キャンパス内を自転車や移動する生徒もいます。学部数がとても多く、その分土地が広く大変ではありますが、図書館などの勉強施設は充実しています。図書館の中には生徒専用のPCや、たくさんの机があり、集中して勉強できる空間が整っています。また、ライティングセンターという施設も併設しており、エッセイの



書き方や英文読解の手伝いなど、留学生に優しいサポートをしてくれる施設もあります。

また、勉強だけではなく、体を動かすことができる「レクリエーションセンター」という施設もあり、中にはバスケットボールのコートやトレーニング用の施設、他にも様々なスポーツが楽しめるような環境が整っています。2.授業 初めの頃は授業についていけただけでかなり大変です。日本で英語の成績が良かったとしても、ネイティブのレベルは想像以上に高く、そのレベルの英語を授業内で聞きながら授業の内容を理解することは難しいです。授業の内容をしっかりと理解するためには、予習復習に時間を割き、分からないところは教授に聞きに行くことが大切です。また、課題の量は日本と比べものにならないくらい多く、ほとんど毎回の授業の後には課題が出されます。レポートなどの課題も多いので、上記に書いたようなライティングセンターを利用し、課題のサポートをしてもらうことをお勧めします。

【最後に】 UTMに応募するためにはTOEFL iBT61もしくはIELTS 5.5以上の語学資格が必要です。越えなければいけない語学力の壁が大きいと思います。しかしここを乗り越えれば、あなたがこれまでの人生で経験したことのないことが、アメリカという地で経験できます。私自身もアメリカに行くことによって、日本では体験することのできない人種差別的な文化、宗教の文化、互いの考え方の違いなど、身をもって体験することが出来ました。若い感受性が豊かなうちにこのような経験が出来たことに感謝しています。試験に必要な点数を取得することはかなり大きな壁ですが、あなた自身が壁を乗り越えたあとに経験するであろうことを想像しながら、頑張ってください!

